

## 第2回 都市づくりのランドデザイン庁内検討委員会 議事概要

(都市づくりランドデザイン担当部長)

只今から、第2回都市づくりのランドデザイン庁内検討委員会を開催します。本日進行を務めさせていただきます都市整備局都市づくりランドデザイン担当部長の五嶋です、よろしくお願いいたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきます。お手元の次第の下段に記載の通り、配布資料につきましては資料1から資料3の3点でございます。不足がある場合はお申し出ください。よろしいでしょうか。

まず最初に本会議の委員長である都市整備局技監の上野から挨拶をさせていただきます。

(都市整備局技監)

都市整備局技監の上野でございます。第1回の検討会を年度末の3月29日に開催させていただきました、非常に短い時間の中で各局の皆様におかれましては、ご意見を出していただきまして大変ありがとうございました。各局のご意見を踏まえ、2040年代に向けた未来感を出せているか、分野横断的な取組となっているかなど、全体のバランスを見ながら取りまとめを行いました。今週末に素案という形で公表させていただきたいと考えておりまして、概略や方向につきまして先立って知事にも説明をしたところでございます。

その際、知事の方から2点ご指摘がございました。ひとつは、最近世の中の大きな流れとなっているものの中にESGという言葉があつて、そのESGという考え方をぜひこの計画の中に、織り込んでほしいという話がありました。ESGのEというのがEnvironment、環境のことで、Sが社会、Socialであると。GがGovernanceであるそうです。その3つの頭文字を取ってESGといい、そういう言葉が世の中の大きな流れとしてあるということです。もともとは国連で、持続可能な社会を推進する中で提唱された言葉のようですが、ぜひこの環境面の取り組み、社会面での取り組み、それからガバナンスの面、そういったものが今回のランドデザインの中にも貫かれる形で考え方を打ち出していく必要があると考えています。

それから2点目としまして、「緑」を守る、あるいは死守するというようなことを大きく打ち出してほしいという話がありました。開発そのものを抑えるわけではないですけれども、放っておけば農地がどんどん減っていってしまう。そういった中で、少なくとも維持するという方向性をしっかり出していきたいというような話がありました。各局の色々な部署の力で、緑を減らさない、増やしていくという取組をさらに進めていく必要があると考えています。

素案公表の後、夏ぐらいには完成を考えているところでございます。スケジュール的には非常に短いところで、各局の皆様におかれましては大変恐縮ではございますが、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

ありがとうございます。では続きまして、議事に入らせていただきます。最初に、都市づくりのグランドデザイン（素案）についてです。資料につきましては、都市政策担当課長から説明いたします。

(都市政策担当課長)

都市政策担当課長の長尾でございます。よろしく願いいたします。前回お示ししたグランドデザインの叩き台について各局からご意見をいただきまして、そちらを反映したものを素案という形でまとめています。また、イメージの写真や図なども加えております。

各局からの主な意見の反映箇所について説明します。まず資料の2、11ページをご覧ください。右側、「誰もがいきいきと交流・活躍できる」のところのタイトルについて、政策企画局から将来を見据えたタイトルにすべきというようなご意見を踏まえて、「誰もが自分の可能性を生かした活躍」というタイトルに、さらには「技術の進展により生活の自由度が広がる」といったような都民の活動イメージをお示ししています。

続いて12ページをご覧ください。「多様なライフスタイル」のところで「ニーズに合わせた働き方」という一番上のところですが、一点追加しています。「人々は余暇と仕事の時間を自分で選択できる事により行動の幅が広がり、自由で質の高い東京での生活を楽しんでいます」という表現を、イメージを持ちやすいように追記をしています。

14ページをご覧ください。同様に政策企画局から「安心して住み続ける」の一番上のリードのところで「多様な文化を受け入れ、活気のある東京らしさを感じながら暮らしている」という、この「多様な文化を受け入れ、活気のある」というところを追記しています。

63ページをご覧ください。上に「都市計画道路のネットワーク」の図がありますが、こちらは建設局からのご意見で追加しています。

68ページをご覧ください。こちらは「鉄道ストックを基軸に誰もが移動しやすいまちをつくる」というところで、取組1「地下鉄駅を中心としたまちの顔をつくる」の方針の二つ目のところで「地下鉄駅や周辺に」と書いてありますが、もともと「駅」だけの表記だったものを、交通局からの指摘で、「周辺」という言葉を入れて「まわりの街も含めて駅の増強をしていく」と変えています。

72ページをご覧ください。ここは「物流機能」の取組3のところでございますが、昨今「貨客混載」ということで、公共交通に貨物も積んで配達制度を使って物流を行うという取組がいくつかみられますが、地下鉄の適性は今のところ高いと認められないということで、「公共交通を活用した」と変えています。

73ページをご覧ください。「情報都市空間」のところですが、ここもオープンデータの表現について総務局と調整いたしまして、「機械判読可能な形式」と修正しています。

86ページをご覧ください。「水素エネルギー」の部分です。環境局からご意見いただきまして、選手村地区に限定した記載になっていましたが、幅広く2040年代を見据えて読めるように書いた方がよいというご意見を踏まえまして、この記載に変更しているというところです。

88ページをご覧ください。「もったいない」と、「都市の資源を無駄なく使う」というところの二つ目の四角「もったいないを徹底する都市づくり」というところに、「施設の長寿命化」の記載をしていますが、「上下水道」の記載がなかったのでそれを追加してほしいというご意見を踏まえ

て追記をしたところでは。

99 ページをご覧ください。ここは「土地利用に新たな視点を重ね合わせる」ということで、これまでにないレイヤーを書いています。この「農」の部分で、「都内産農産物の高付加価値化にむけた取組」という表現をした方が良いというご意見がありまして、ここも追記をしています。

108 ページをご覧ください。「農空間を生み出す」の、「農地があらゆる角度から多面的に使われている」というところで、「都市農地への農業体験施設」という記載だけでしたが、「防災兼用の農業用井戸の整備」という言葉を追加した方が良いというご意見を踏まえまして、追記をしています。

113 ページをご覧ください。「芸術・文化」の、一番上の四角の「演劇や音楽、アートを楽しめる場所が増えている」の二つ目の点で、既存ホール等の記載で、最後のところが「ニーズに応じた公演の場を確保します」という表現でしたが、文化に関心のない人も気軽に文化に触れられるように読めるようにした方が良いという生活文化局のご意見を踏まえまして、「多様な公演の場の確保」と修正しています。

141 ページをご覧ください。「地域像の表現」のところでは。中段あたりに「武蔵野の森地区」とあります。「スポーツ振興の拠点となるとともに、商業施設の立地が進み」という表現でしたが、「大規模イベントでの活用」を追記した方が良いというオリンピック・パラリンピック準備局のご意見を踏まえまして、追記しています。

その他、各局から色々のご意見をいただいて追記をしている箇所が、細かい所でたくさんございますが、主だったものは以上でございます。

最後に、専門用語が使われている記載が結構ありますので、素案の段階から都民にわかりやすい資料にしていくため、一番最後に語句の説明を、数ページ追加していくことを考えておりますので、よろしく願いいたします。説明は以上です。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

前回からの修正点について、主な部分についての説明をいたしました。こちらの内容につきましてご意見等ございましたらお願いしたいと思います。

(建設局企画担当部長)

建設局ですけれども、色々私どもの考えを取り入れていただきましてどうもありがとうございました。細かなところで恐縮ですが、発言させていただきたいと思っております。

3点ほどございまして、まず80ページの下絵に描いてございまして、そのイメージがわかりにくいと思ったのですが、延焼遮断帯は、幅だけで決まっていると思っておりますが、河川と延焼遮断帯をどのように結びつけるか、少しイメージがわかりにくかったので教えていただければと思います。

2点目が3ページでございます。3ページのところにそれぞれの指標が書いてございまして、インフラの整備や社会的変化の度合いというイメージが書いてあるのですが、「三環状道路等」というのがありますが、この「等」に何が入っているかということと、2020年度に9割完成といっていますが、その内訳はどのようになっているのか、もしこの場でなければ後でも結構なので、教えていただければと思います。

3点目ですが、147ページの「無電柱化」のところですが、無電柱化が2024年ぐらいに終わるような絵柄になっています。現在の計画では2019年までに環六内側の拡幅が都市計画として完成した道路についての無電柱化を完成するというのと、環七については2024年というような明記されているんですが、骨格的幹線道路が全部終わるとは言っていなかったと思います。この辺は調整させていただくという3点でございます。よろしく申し上げます。

(都市政策担当課長)

まず80ページですが、この延焼遮断帯については、幅員が27mで燃え留まるというような考え方だと思いますが、その際に、道路だけで止めるということではなくて、河川がある場合については河川もうまく活用しながら、平素は親水河川として使いながら延焼を遮断する際にも寄与するような整備を考えられる場所があるのか、あればそういう取組を進めていきたいというイメージで書いています。記載内容については、調整させていただければと思います。

それから、先ほど3ページの想定されるインフラ整備や社会変化の例というところでご指摘の「三環状道路等」というのは、ここで「三環状道路」だけができれば、道路空間再編ができるわけではなく、骨格幹線など色々な道路ネットワークが整備されることで再編が可能になるので「等」を付けています。整備率の内訳は、後ほどまたご説明に伺いますが、表記の工夫がいろいろあるかもしれないので、そこも改めて調整をさせていただければと思います。

それから最後、148ページのところについては、まさにどう進めていくか、今、建設局で進められている骨格的な道路の無電柱化の部分になりますので、表現は工夫ができるのではないかと考えております。これもまた後ほどご調整をお願いしたいと思います。

(都市づくりランドデザイン担当部長)

3点のご指摘は今後調整をさせていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。

(交通局企画担当部長)

交通局でございます。一点確認ですが、68ページの取組1で、「地下鉄駅を中心としたまちの顔をつくる」という形で地下鉄駅に限定していますが、答申の26ページでは「駅と一体となったまちづくり」で地上駅を含むような記載になっているかと思いますが、これを地下鉄駅に絞った理由についてお聞かせいただけますでしょうか。

(都市政策担当課長)

答申26ページの部分で申し上げますと、「駅と一体となったまちづくり」の記載の次の27ページで、「なお地下鉄駅をはじめとして重要な交通結節点であるにもかかわらず周囲の景観に埋没してわかりにくい駅もあることから、今後は積極的に周囲の都市づくりに合わせた顔づくりを進めていくべきである」という都市計画審議会からのご提言を踏まえてこのような記載にしています。

(交通局企画担当部長)

そうしますと地下鉄駅をはじめとして重要な交通結節点ということになっていますので、あくまで地下鉄駅だけではなく、地上駅を含むと思われませんが、地下鉄駅で限定していくということなのでしょうか。地上駅は含まないのでしょうか。

(都市政策担当課長)

地下鉄駅は都心部の、東京ならではのものであり、高密度な地下鉄ネットワークというのが東京の特徴でもありますので、そういったものを最大限活用したいというのが一つあります。取組2で、「誰もが使いやすい交通結節点をつくる」で、「駅周辺の空間に地域に必要な都市機能が導入されている」など、地下と地上の鉄道の書き分けをここでしています。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

地下鉄駅がポテンシャルを持っているのに有効に使われていないのではないかとという中で、特出しという形で表現させていただいています。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続きまして、今後の進め方について説明いたします。

(都市政策担当課長)

それでは資料3をご覧ください。点線より上はこれまで行ったもの、3月29日に第1回の各局照会を行い、素案としてまとめていきます。5月中旬以降に、素案を公表してパブリックコメントを実施するという中で、また併せて区市町村への意見照会等も行っています。それらの反映状況を7月の第3回の庁内検討会でご議論いただきまして、都市づくりグランドデザインの案として、また知事への説明を踏まえて8月頃にグランドデザインの確定・公表を考えています。予定については以上です。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

以上で議事は終了となりますが、その他全体を通しましてご意見・ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。特に無いようでしたら本日の委員会はこれにて終了させていただきます。次回はパブリックコメントの意見を反映してグランドデザインの最終案を取りまとめました上で、7月後半に開催を考えております。詳細につきましては事務局からお知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

— 了 —